

2025年度ダイバーシティ・将来計画合同企画ランチョンフォーラム開催報告

2025年9月10日、日本遺伝学会第97回大会初日に、神戸大学六甲台第2キャンパスにて、ダイバーシティ・将来計画合同企画ランチョンフォーラム『◆出会いとお金とキャリアパス◆～多様な未来を創る！研究者・学生のためのキャリア＆ライフプランニングセッション～』を、現地およびオンラインにて開催しました。本フォーラムは、昨年に引き続き Slido を用いた双方向形式で実施し、参加者の意見や質問をリアルタイムで反映しながら進行しました。フォーラムは大変盛況で、現地参加者は121名、オンライン参加者は6名でした。

プログラムは前半がパネリストによるトークセッション、後半が Slido を活用した質疑応答およびパネルディスカッションという構成で行われ、会場から質問を受けながら活発なパネルディスカッションが行われました。

フォーラムの冒頭では、日本遺伝学会ダイ

バーシティ推進委員会の藤泰子委員長よ

り、本フォーラムが将来計画幹事との合同

企画として実施されたことや、企画の趣旨

が説明されました。続いて、本年度の委員会



の主な活動紹介や、大会参加支援制度についての紹介が行われました。

また、遺伝学会の女性会員の割合は年々増加しており、特に学生会員で

は約半数を女性が占めている一方で、一般口演座長やワークショップ世

話人・演者における女性比率は減少傾向にあることが報告され、今後の

学会開催においては、座長やワークショップ演者の女性比率を高めてい

くことが呼びかけられました。

その後、福田渓委員より、出産や育児に関する現状把握や改善に向けた

アンケートを実施し、その結果を遺伝学会ウェブサイトにて公開してい

ることが紹介されました。また、昨年度のフォーラムにおいて、キャリ

アパスに関するフォーラムの開催を希望する声が複数寄せられていたこ

とが触れられ、本企画がそうした声を踏まえて企画されたことが説明されました。

次いで、「多様な進路を選んだ先輩たちの講演」をテーマに、パネリスト3名によるトークセッションが行われました。

まず、東北大学多元物質科学研究所のURAである
ある愿山郁さんから、日本および海外での研究経
験とご自身のキャリア、現在携わっているURA
の業務についてご紹介がありました（オンライン



インでのご登壇）。また、これまでの研究経験が現在のキャリアに活か
されている様子をお話しくださいました。また博士課程への進学や海外
留学、出産後も研究を続けるかなど、人生の色々な選択に悩まれながら
も研究を続けてこられたことなどが語られました。さらに、日本は年齢
によってキャリアパスが決められてしまうと感じていたが、アメリカ留
学時によりフレキシブルな働き方や価値観が許容されている文化に触
れ、「人それぞれ幸せの形は別、その人が幸せと思うところで選択して

いくのが良いのではないか」と考えるようになったとお話しされました。最後に「人ととの出会いが大事で、相手のことを知り、自分のことを知ってもらうことで色々な道が広がる。研究に限らずプライベートでも色々な人脈を作つておくと、そこからまた道が開ける。そういう人ととの関係が重要だと考えている」とのメッセージが伝えられ、印象深い締めくくりとなりました。

次に中外製薬 研究人事 G の清水祐一郎さんから、ご自身の研究経歴や企業入社後に携わられたお仕事についてのお話しがありました。また企業への進路選択にあたって悩まれた経験や、企業に入る



きっかけに触れられ、「自分は“偶々”が積み重なって今があるが、皆さんには“偶々”ではなく、企業の研究ってこういう感じ、と将来の選択肢としてしっかり頭に入れた上で、アカデミアに行くのか、企業行くのか、それ以外の場所を選ぶのか考えて欲しい」とのメッセージが語られました。また今まで色々な分野で研究してきたことが、企業において多くのプロジェクトに関与するうえで役に立った、とのお話がありました。また中外製薬における創薬事業の紹介、

アカデミアと企業の研究の違い、創薬研究員の多様なキャリアパス、そして創薬研究の組織風土などが紹介されました。そして就職活動を控えた方に向けては、「色々な分野の方々が活躍しているのが製薬企業。アカデミアを目指すにしても、企業を目指すにしても、いま貴重な研究をやっているその期間を大切にして、とことんやってほしい」という力強いメッセージが送られました。



続いて、兵庫医科大学医学部で助教を務める今坂舞さんから、ご自身の研究内容や家庭環境、これまででの研究人生におけるさまざまな岐路についてお話しいただきました。博士課程修了後に進路について悩み、自信を持てず出身研究室でポスドクを続けたが、自信がついたタイミングで兵庫医科大学に着任された経緯が紹介されました。また出産後に子育てと研究の両立に悩んだ経験についても触れられ、両立の難しさから研究を続けることを迷った時期もあったが、それでも研究を続けたい強い思いがあったことが語されました。大学近くに居を構えて子育てと研究の両立を続ける決断をした背景には、職場環境の良さや周囲からの理解とサポートがあったといいます。「子育てと研究の両立に職場環境は大事だと思っていて、特に上司の理

解が必須であり、逆にそこさえ得られれば色々乗り越えられる」と語られました。兵庫医科大学の両立支援制度についても紹介され、子育てと研究の両立に不安を感じている人に向けて、近年は両立支援制度が充実しているので、支援制度を実際に調べてみると具体的に将来設計しやすいのでは、とのアドバイスがありました。

最後に、杉本道彦将来計画幹事および安田武嗣委員の司会でパネルディスカッションが行われました。司会からの質問に加えて、会場からは Slido を用いて多くの質問が寄せられ、「いいね」が多く集まった質問を中心にトーク演者が回答する形式で進められました。キャリアパスの選択や研究への向き合い方、創薬企業への就職、人生設計などに関する質問が多数寄せられ、それぞれに対してパネリストから率直で親身な回答やアドバイスがありました。司会のリードによる Q&A で議論が深まり、活気にあふれ、楽しく充実したパネルディスカッションになりました。

また、会場にて Slido を用いてフォーラムの満足度調査を行ったところ、回答者の約 95%が 5 点満点中 4 点以上（5 点：69%、4 点：26%）

と非常に高い満足度でした。「さまざまな将来の選択肢が聞けて参考になった」、「Slido を使った参加型の形式が楽しかった」、といった感想が多く寄せられ、本フォーラムは大変有意義なものとなりました。



(文責 古郡)